

としょかん かいちょう 図書館 小怪鳥 トリボン

さく 作・いしいしんじ え 絵・かげやまなおこ

だい わ とり ぼん 第2話 トリボンと、ともだち

とり ぼん
トリボンはふだん、ほん 本のすがたで、きんりんしょう としょかん
錦林小の図書館の、ほんだなのどこかにおさま
っています。こ どもやせんせい
先生がいなくなると、そっとたなからぬ
抜けだして、ひょうし うら
表紙と裏
ひょうし
表紙のつばさをひろげ、へ や
部屋のなかをばさばさとと
飛びまわります。

いついてみると、としょかん
図書館は、じっさい、すてきなばしょ
場所でした。おもったとおり、
ほん
本をひろげさえすれば、たわわなしゃしん
写真のくだものや、1 ページぶんのばかでっかい
こむし す
小虫が、好きなだけ食べられます。あまぞん じゃんぐる
アマゾンのジャングルでねむったり、ぱり
パリの
いちば あいす
市場でアイスを食べたり、あふりか だいそうげん ぜんそくりよく と
アフリカの大草原を全速力で飛ぶことだってできます。

あるひ
日、ふつうよりうす
薄っぺらいほん
本をひっぱりだそうとしたら、
「くすぐったいぞ！」

ほん
と本のなかからこえ
声がひびき、とり ぼん おどろ
トリボンは驚いて、おも
思わずほん
本をとりおとしてしまい

ました。すると、なんてことでしょう。本^{ほん}が勝手^{かって}にひらき、ぱさぱさと器用^{きよう}にはばたいてまいあがると、みごと^{つくえ}と机^{うえ}の上に着地^{ちやくち}したのです。

よくよくみると、ひらいた本^{ほん}の上に、顔^{かお}がのっています。くちばしも、ゆびも、
足^{あし}もあります。頭^{あたま}には、白^{しろ}い毛^けが一本、くるっと輪^わをかいてはえています。

「わしは、じいトリボン^{とりぼん}じゃよ。やっと会^あえたな」

と、ずいぶんくたびれた表紙^{ひょうし}を、ぱさぱさ動^{うご}かして、

「ここにはほかにも、いっぱいお仲間^{なかま}がおる。みんな、おまえさんと同じ^{おな}ように、
ひなたのまどべの、本^{ほん}の上^{うえ}でねむってるうち、はさまれてトリボン^{とりぼん}になったんじ
ゃ。わしもそうじゃった。おまえさんも知^しってるのとおり、本^{ほん}って、理^り想^{そう}的^{てき}なふとん
じゃからなあ」

じいトリボン^{とりぼん}のこえ^{こえ}があいずのように、ほんだなからつぎつぎと、本^{ほん}の姿^{すがた}の鳥^{とり}たち
が飛^とびだしてきました。ひらり、ひらり、机^{つくえ}の上にとびおると、

「やあ」「やあ」「はじめまして」「これから、よろしくな」

こ^こどものトリボン^{とりぼん}、つよ^{つよ}強^とそうなトリボン^{とりぼん}、めがねのトリボン^{とりぼん}、イケメン^{いけめん}の
トリボン^{とりぼん}。とりどりの鳥^{とり}たちがあくしゅのため、それぞれの表紙^{ひょうし}をさしのばしてき
ます。

「ありがとう、ありがとう」

みんなの表紙^{ひょうし}をタッ^たチ^ちしながら、トリボン^{とりぼん}は笑^{わら}いました。

「本^{ほん}ってほんと、最^{さい}高^{こう}のともだちだ」

が^がら^らっ^とと戸^とがあいて、先^{せん}生^{せい}が図^と書^{しょ}館^{かん}にはいってきました。一^{いっ}瞬^{しゆん}、ぱさぱさぱさ、
紙^{かみ}のこすれる、かわいた音^{おと}がひびきました。

先^{せん}生^{せい}は部^へ屋^やをみわたします。机^{つくえ}の上^{うえ}には、なんにものっていません。先^{せん}生^{せい}は電^{でん}気^き

を消し、戸を閉め、外からガチャリとかぎをかけました。ぱさぱさぱさ、なにかの
たてる小さな音が、また、どこかでひびいています。

